

令和3（2021）年度

## 第二回 吹田市立博物館協議会

### 議 事 録

日 時 令和3（2021）年10月27日（水） 午後1時30分～午後3時35分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 伊藤・村田・西山・後藤・橋爪・勝田・山口・齋藤・八代・佐久間・中久保・喜田委員  
\* オンラインでの出席者を含む

【1 開 会】 高橋館長（出席状況の確認）

\* 欠席 佐久間委員

\* 出席委員数は全委員13名の過半数を超えており、本会は成立しています。

【2 挨拶】 中牧特別館長 挨拶 、 木戸地域教育部長 挨拶

【3 初参加の委員の紹介と全委員の自己紹介】 （資料P.1 委員名簿参照）

【4 職員の異動】 報告と自己紹介（資料P.2 博物館組織図・職員配置図参照）

\* 落次長に代わり道場次長。（職名の変更）中牧館長が中牧特別館長、高橋参事が館長、池田主幹が副館長に。（昨年度より）新任；竹原学芸員、再任用；藤井学芸員。

【5 傍聴報告】 傍聴者なし。

【6 案件（1）事業報告（令和3年度前半）について】

（議 長）案件（1）事業報告（令和3年度前半）について、事務局より説明をお願いします。

\* 事務局より説明。

（議 長）（1）事業報告について、ご質問ご意見はありませんか。

（委 員）私から感想と質問を述べさせてください。この博物館はコロナの展覧会を開催し、関連した掲示物等を収集した、というユニークな活動をされている。この先こういう資料を、どういう幅で集めるのか。私は集めた方がいいと思っているのですが、例えば、百年前のスペイン風邪に関する古書など売り物が出たら、どうするおつもりなのか。また、将来、感染症と近代日本といったような展覧会を開くとか、どうお考えですか。

（議 長）今後の方向性も含めて、事務局の方からどうぞ。

（事務局）資料の収集は昨年2月から行い、現在3,000点以上が集まっております。今後も引き続き集中的に収集していきたいと考えております。また、集中的に資料を集めることを、いつ止めるのかも

悩みではありますが、完全にやめることはない。もし、関連資料が販売された場合は、個人的には購入対象としたいと思っています。また、昨年度はその時点で集めたものを展示してきたわけではありますが、現在進行形のコロナを歴史の中に位置づけ、感染症に関する歴史資料を展示し、歴史の流れの中で開催する展示会を進めていきたいと考えています。現在も吹田市と茨木市の会場も含めた8会場で巡回展示を開催しています。これは、こちらから遠方へのアプローチであったり、8会場ですということは密にもなりにくいということであり、将来的にも収集の違ったアプローチもしていきたいと考えています。昨年、メディアもアカデミック的にも注目をされ、また日英共同での研究の話もあり、今後は国際巡回展であったり、同時開催の展示なども検討中であります。

(委員) とてもいい話だと思います。ぜひ進めていただきたい。昔、大阪では適塾で緒方洪庵がコロリの治療をしたという大阪ならではの歴史がある。吹田にこだわらず、他との連携を、感染症系の展示を。大阪市大病院ですが、個別の感染症から設立されたという大きな流れがあったわけで。感想だけですが・・・

(事務局) 過去の感染症の資料があるのか、についてですが、吹田にまつわるスペイン風邪に関する資料などは、今は見つかってはいません。これからの調査対象としたい。吹田以外では、他館との交流は生まれもしましたが、収集・発信しているのは、北海道、早稲田大学、福島県、山梨県といったところ。広く情報収集中であります。

(議長) そのほか、本日オンライン参加の委員の先生、いかがですか。

(委員) ご報告、ありがとうございます。オンライン講演会についてですが、7月の講演会はオンラインを止めて、通常の講演会に戻しているのは、何か理由があるのですか。再生回数は上がっているように思うのですが。

(事務局) オンラインでの講演会は、講師の意向を確認して実施したものです。7月31日の講演会は講師の思いもあって対面方式で実施したものです。秋の企画展では、講演会と歴史講座を対面式で開催したわけですが、その様子を後日オンラインでアップしていく予定です。

(委員) できれば、会期中にアップされた講演会も見たい。

(事務局) はい、そのような思いも重々感じております。

(事務局) 補足です。オンラインはなかなか難しい。コロナ禍の真っ最中ならば、できる限り両方だと考えています。オンラインの難しいところは耳が聞こえる人だけではなく、耳の不自由な人に向けた字幕に、テープ起こしをし、画面に当てはめる作業が難しい。バイトの力を借りながら、それを見直す労力がとても大きい。多くの時間を要することで、なかなかタイムリーに出すことは難しいことであると付け足しさせていただきます。

(委員) 今の点について、100%のものを最初から出すと、そうなる。聞き間違いてんこ盛りのものでもYouTubeで自動生成ツールを使っていると、かなりレベルは低いですが、機械を使えばなんとか公開できるものにはなる。そして、字幕をつけるなど最後にちゃんとしたものをアップしていけばよい。完全なものを即時公開するといった考えは捨てたほうが良い。

(事務局) 昨年の秋、そうしたところ、当事者の方からお叱りを受けました。こちらとしてはできるだけ早くとの思いからそうしたわけですが、私が2度3度と見直しをしたものをアップしたわけで、委員のご指摘に近いものだったので、自動生成したものよりはかなり精度の上がったものだったということなのですが、そこに至るまでだけでも大変だったということをお伝えしておきます。

(議長) 現場としては、試行錯誤で努力をされた結果、今は手探り中という感じですか。

(委員) 私の感想ですが、オンラインに関しては積極的に取り組んでいる感じであった。私たちも同時配信はしても、後からの発信は難しい。著作権や肖像権のこともあり、なかなか対応できていない点もある。また、視聴回数が書いてあるので、せっかくだから公開日を入れてはどうか。

(委員) コロナ禍でオンラインが増えたと自覚しているが、今後博物館にとって新しい道となる。オンラインの発展は？バーチャルの展示案内は？コロナ以前にも行われていたと記憶しているが、市民病院の件ですか、これからはどうなるのか、お聞かせください。

(館長) オンラインにつきましては、いままでの対面とどう併用していくのかがテーマだと思っています。来年度の予算要求としては、オンライン生配信ができるよう努力しているところです。これからの博物館にとっては、オンラインは重要なツールだと考えております。更なる発展に向けて進めていきたいと思います。また、事業報告の P.4 補足ですが、博物館実習につきましては、例年 10 数大学 20 数名で実施しているところですが、昨年度と今年度はコロナの第 5 波で、密を避け感染リスクを回避することはできないということで中止の判断をしました。京都橘大学については、参加人数と実習内容から感染対策を行ったうえで実施をしたものです。

(議長) ありがとうございます。

#### 【7 案件（2）事業計画（令和 3 年度後半～令和 4 年度前半について）】

(議長) 案件（2）事業計画（令和 3 年度後半～令和 4 年度前半）について、事務局より説明をお願いします。

\*事務局より説明。

(議長) (2) 事業計画について、ご質問ご意見はありませんか。

(委員) 質問というわけではないのですが、この人形劇の展覧会ということですが、阪大では人形とその衣装とで一杯で、すごいことになっている。ということで、北摂・北大阪ミュージアムでの連携ということでできないか？とも考えている。うちの担当（演劇・横田）まで。また、「前田藤四郎」という大阪の版画家が、昭和 6 年に「人形芝居」という何か外国のものを訳したもので、直接上演はしていないと思うが、操り人形系で、それは昭和 6 年の版かです。古い作品で、これも。参考までに。

(委員) 私は人形劇が大変好きで、子供たちも、そうやって触れさせて育ててきた。現代も人形劇を見せる活動をされているのではないか。つなげて、そんな活動をしていただきたい。

(事務局) 参考にさせていただきます。ありがとうございます。

(議長) 他に何かございますか。なければ、次の案件へ進めたいと思います。

#### 【8 案件（3）課題討論（令和元年度、2 年度事業点検・評価について）】

(議長) では、案件（3）の課題討論へと進めたいと思います。令和元年度及び令和 2 年度の事業点検・評価について事務局より説明を求めます。

\*事務局より説明。

(議長) では、様式と 10 段階から 4 段階となった評価について、何かございますか。

(委員) 無理はないか。評価者としてうかがえなかった状況にあった令和元年度については、今実感を持った評価をすることが難しい。無理に評価の形式を揃えていくことは必要がないと思っている。この場合には、自己評価がいちばん大事になる。判断がつかなかった、というのが一番正直な思いです。

(議長) 何かございますか。

(委員) 私は形式について、今回のご提案について理解します。10年20年後、評価の変更を見たとき、10段階と4段階の関係は？それがわかるように、まとめの中へ入れては。

(委員) 前回、2020年度の到達具合はAとBとで決める、という決定があった。佐久間委員の提案が大きな提案だと思う。この場で議論するのか、どう判断をすればいいのか…令和2年度以降は、自己と外部の評価点数がほぼ同じ。令和元年度は自己より外部評価の点数が若干低かったか。今までは、分担した評価をやってきた。すべてを見る大変さもあるが、委員として全体を見て、評価するのは自分のためにもなる。

(議長) 他の委員の皆さんは、どうですか。ご意見やご感想を。

(委員) 前回欠席だったのですが、議論の内容を深く理解しながら申し上げます。2年前の評価に比べて全体のことを見ることができた。今までのことを振り返り、この評価スタイルはどうなんだろう。いつの間にか異常に細かくなった。ある部分は基準をもってする数的評価は必要。ただし、これほど細かくなることを予想していませんでした。これについても今後やりやすいようになさったらいい。私たち委員も大変だが、これを作る方の苦労も並大抵のものではない。他の公的な評価スタイルに比べても異常に細かい。

(委員) 評価は極力簡単なものが良いと思います。博物館の仕事が吹田市役所の仕事の例えば10%だとしたら、それを5%に軽くすることが重要だという考えを私は持っている。一方で、この方針案は公文書(外へ出るもの)ですよね。近年、評価については、なぜ事業評価をするのか、評価をするこんな意義がある、と書かれている。意義・目的が要るだろう。

(議長) 他の委員の皆さんは、どうですか。

(委員) 私は今期で(任期が)終わるのですが、毎回、苦しみながらもやってきた。今回は重点項目を中心に評価をするようになってきた。他のところも書けばいいのだが、今回は重点項目中心主義になった。委員の外部評価に対して、博物館側の受け止めは？どう受け止めておられるのかをお聞きしたい。内部評価と外部評価が並列に並んで、また、次の年を迎える。ここに指摘されているようなことについて、どう考えているのか、といった話をしてほしい。

(議長) 他はいかがですか。今多くの意見が出ているのですが、この集約の扱いについては、見直しをしたらどうか、という意見もあるが、現時点ではいかがですか？

(館長) 委員よりご指摘の点についてですが、博物館として明確に示してこなかったことがあります。次年度事業継続にあたって、ご指摘いただいた外部評価を交えながら、活かす点、改善すべき点があれば、と進めてきました。例えば、データベースですが、10年以上も進んでいなかった。今年度は若手学芸員で博物館のIT会議を立ち上げ、システムの見直し行っているところ。来年度予算要求に向けて、こんなことをやりたい、といったことをまとめております。ライブ配信、データベースの公開についても、こういう方向性をまとめている。市の担当部局とも協議中である。なかなか進まなかったことも、今後5年間で形にしたいと考えています。必ずしも目に見える形にはしていないが、外部評価でいただいた声を参考にしていきたいと思っています。

(議長) 委員も私も、毎年関わってきた。私自身も学芸員で意見を受け止めてきた方で、委員の方は「評価しっぱなし」で、職員の方から言ったら「聞きっぱなし」ではいけない。互いに交流しあえたらと思う。そのほうがわかりやすい。互いに理解を深め合えらると思う。私からの確認ですが、委員の言う(案)方針は、評価の方針が変わるので、周知のためのメモかと思っていたが、今後は？

(館長) 一昨年までは鑑文がありました。事業評価報告書でありました。これも入れないと、と考えました。メモではあるのですが。

(議長) わかりました。鑑文として整え、つけていきたいということですね。

(委員) 評価基準の4段階についてなのですが、「AA」と「B」があつて、「A」の中に「AAA」があると見える。「AAA」を取らなきゃいけないと。

(館長) 基本的には「A」と「B」しかない。文章表現についても鑑文の中に入れていきたい。

(委員) 例えば、コロナへの取り組み。私は事業評価として「AAA」で、突出した業績だったと思うのだが。そんな趣旨を文章表記の中に取り入れてほしい。

(館長) 4段階については、確かにむつかしかった段階の設定でした。評価が分かれた場合、平均点をとれない。点数化できないむつかしさがあつた。改善点として「A+」や「C」寄りの「B-」があるのか、議論を。

(議長) 事務局としては、一旦はこの形で取りまとめをしたうえで、第3次 今後5年間の中での修正もありますか。

(館長) 今回は試行。令和2年度の評価として4段階。第2次中期計画の中でも変遷はありました。令和4年度の協議会でご意見をいただければと考えています。この場ではご議論を。変えるべき点は変わっていききたい。

(委員) 「C」があつてもいいかな、という話ですが、具体的に「C」つけた方が心安らぐという項目があるとしたら、例えば、予算の問題とかではないかと思う。どういうものが「C」になりそうなのか。

(特別館長) 一般的な話だが、アンケート調査に「C」評価は必要かと思う。計画にあつても実行ができなかったとき、例えば、ビジターセンター。予算の面でできなかったと。予定はあるし、希望はあるが、これは「C」に近いと。もう1点。フィードバックをどう対応するのか、それをもっと明示すべきと感じました。博物館をより良くしたい、という観点から、委員の皆さんの評価ならば。

(議長) ありがとうございます。意義や内容の確認などあれば。いかがですか。ありませんか。今日の終了予定時刻も気になるのですが、外部評価の記載内容に関わつて、何かありませんか。それでは、私の方から、意味の確認として、平成元年度のP.4、「むかし」の時間的範囲について、言葉のわかりにくさがありますが、ちょっとお聞きしたいのですが。

(委員) 小学生なりの歴史教育論があろう。「むかし」はいつ? 前の時代? 小学校の先生はどう教えるのか。少しわかりにくい表現だったかもしれません。

(議長) 最終的には、評価書が表に出るまで調整が必要になってくるのでしょうか。委員の皆さんに文章を練る作業をしていただくということはあるですか。

(館長) スケジュール的には、今期で退任される委員の方もありますので、作業時間的には無理がございます。議長に再度確認していただき、提出へととなります。文章のわかりにくさなど直せるか否かはありますが。

(議長) では、書式と段階評価に関する意見もあつたが、試行として一旦まとめていきたいと事務局からありました。修正は、その都度行う、ということよろしいでしょうか。

(委員) 評価「C」については、次年度以降で、ということ?

(議長) はい。以上のような内容で、委員の皆さんのご了解をいただけるなら、この後は事務局と議長で最終調整をします。では、これで第二回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。